

道徳 福祉教育

「いろいろな立場を理解し、寄り添う気持ちをもとう
～聴覚障がいのある方々との交流を通じて～」

返子市立沼間中学校

単元（題材）目標（学習指導要領 道徳編より）

- 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。
- それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心もち謙虚に学ぶ。
- 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
- 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

(1) 実施時期 3月上旬（3年生卒業期間）

(2) 対象（学年等・人数） 第3年学年 91名，教員，保護者

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

- 本校教員 6名
- 逗葉ろうあ協会会長，ボランティアセンター，手話サークルの方々

(4) 実施内容

- 講師の先生による講話
 - ・聞こえの程度や聞こえなくなった時期のこと
 - ・「聞こえないこと」とは何か？
 - ・家の中で困ることは何か？
 - ・外で困ることは何か？
 - ・コミュニケーションの方法について
- 体験学習「こんなとき、どうしたらいいかな？」
 - ・自分が、聴覚障がいの人に出会ったとき、どう接すればいいか？
 - ・聴覚障がいのある人は、困っているときどのように接してほしいか？→実際に状況を設定して体験する（ロールプレイのように）
 - 【ロールプレイの内容】
 - ・鍵落としましたよ！ ・コンビニでのアルバイト
 - ・ミニ手話講座 → 会話してみよう

(5) 成果

手話の体験はもちろんのこと、耳の不自由な人と接する上で自分たちがどうすればいいか、また困っている時にどうしてほしいかということ、実践を交えて体験できた。このことは生徒にとって、今後社会に出たときに困っている人に対して手を差し伸べてみようとするきっかけになったと思う。いつかこの授業を思い出して、そのような場面に直面したら、行動に移せるような人になってほしいと思う。

(6) その他

このような取組は、2015年度に初めて行った。今後は社協・ろうあ協会・手話サークルとの連携をスムーズに行うことができるように系統立てていきたい。また、今回は3年生の卒業期間の特別時間割の中で行ったが、1・2年生でも実施できるように、授業の組み立てを行っていきたい。